

府中新キャンパスを祝して

学 長 中 嶋 嶺 雄
(国 際 関 係 論)



東京外国語大学は、永年の懸案であり、また悲願であった新キャンパスへの移転統合を実現しつつあり、平成12(2000)年9月27日に新キャンパス・オープニング・セレモニーを挙げる運びとなりました。教職員、学生諸君はもとより、同窓生や本学関係者のすべてが喜びとするところであります。本学を代表して、これまでにお世話になった皆様へ、心から御礼申し上げます。

本学は、その前身である東京外国語学校が明治6(1873)年に開設されて以来、すでに127年の歳月を刻んで幾多の人材を育てつつ今日に及んでおりますが、この間の本学は、校地・校舎を転々としたばかりか、相次ぐ火災、震災そして戦災によって、まさにキャンパス受難の歴史を辿ってまいりました。昭和15(1940)年以降の西ヶ原キャンパスには、新制大学としての半世紀の歴史も残されたのですが、本学の近年の発展によってキャンパスの狭隘化が著しく、大学としての知的環境にも欠けるものでありました。

このような状況に鑑みて、本学では今から15年前の昭和60(1985)年11月に旧米軍キャンプ関東村跡地への移転統合の希望を表明し、政府・文部省をはじめ関係諸機関との折衝を重ねてまいりました。学内的には昭和63(1988)年10月に「移転統合の基本構想」をとりまとめ、本学の早期移転に取り組んだのですが、諸般の事情から移転統合の最終決定を見ないまま年月を費やした後、平成8(1996)年8月に文部省の会議で「対話と交流をベースにして世界に開

かれたキャンパス」をコンセプトとする新キャンパスの基本設計が承認されたのであります。翌平成9(1997)年9月には、現地において新キャンパス起工式を行い、以後工

事が順調に進んで、研究講義棟、附属図書館、大学会館および保健管理センターという教育上の主要機構が予定より早く一括して竣工することとなり、いよいよこの10月から新しいキャンパス・ライフが始まります。私自身、「恵まれた自然環境を大切に、21世紀の日本を代表する、世界に開かれた大学キャンパスを実現したい」としばしば述べてきましたが、学内外の皆様のご尽力、とくに文部省の格別のご配慮によって、その夢はここに達成されつつあります。私にとりまして、身に余る光栄と存じ、新キャンパスの開設を心から祝福したいと思います。

しかしながら、大学にとって最も重要な課題は、教育・研究の充実であります。国立大学として、国民の負担で実現させていただいた本学の新キャンパスが国民の付託に応えていくことになるためにも、本学はさらなる改革を進め、21世紀の世界に向けて、大いなる知的国際貢献を成し得る個性豊かな大学に飛翔しなければなりません。そのために本学教職員一同最大限の努力をすべきことを誓いつつ、関係者の皆様への感謝に代えさせていただきます。

新キャンパス・オープニング・セレモニーが平成12(2000)年9月27日に挙行されますので、在学生諸君や保護者の皆様も是非ご参加下さい。

場所：研究講義棟ガレリア

時間：9月27日(水) 午前11時

伸びやかな図書館で 精神の解放を！

附属図書館長 池端雪浦

(アジア・アフリカ言語文化研究所 教授)

待望の新図書館が完成しました。4階建、面積は旧図書館の約2倍、6,800㎡ほどです。手狭で万事にないづくし旧館に較べて、新図書館の「居住性」は格段に改善されました。第一に気づくことは、館全体に広がる伸びやかさとやすらぎでしょう。それには、いくつかの創意と工夫が試みられています。最下層の1階部分を掘込んで集密書架を配置することによって節約された面積を利用して、従来型の閲覧席だけでなく、閲覧テラスやラウンジなどが設けられています。建物の南北両面を全面ガラス窓にして、キャンパスの四季の移り変わりを建物内に取り入れる工夫も施されています。自然との交わりの中で読書をたのしむ、ゆたかな空間が実現されたのです。4階天井部分のトップライトと各階の窓下部分が電動式で開閉できる設計になっていますから、冷暖房を使わない季節には外気を取り入れることもできます。

そして、なによりも私たちの心を解放してくれるのは、2階から4階天井へと伸びるアトリウム（吹き抜け）です。その壁面を飾るのは、アメリカの美術家リタ・アルバカーキ（Lita Albuquerque）の「島／宇宙（Island/Universe）」と題するドローイングです。ドローイングには、宇宙や海を漂う鳥々のようにスカラベ^(*)の化石のイメージが描かれ、それに重ねて、作者の創作詩「スカラベの島の瞑想（Scarab Island Meditation）」が、本学の先生方によって翻訳され、26の言語で描かれています。ここに、柴田勝二先生の日本語訳による、詩の全文を紹介しておきましょう。

そこへ横たわり
心と心を響かせて
天空に向き合う
彼と私
永久の静謐の中で
私たちは細胞 島 地球 そして星 銀河になり
一つの存在となって
漂い
らせんを描きながら



島となり
楽園へと至る！

思い描いてみて
どうか思い描いてみて
もし海に水がないとしたら
鳥たちはどうなるのか？
そして星々の間に虚空がなければ
宇宙はどうなるのか？

その時私たちは感じ取るのだろうか？
大地と光が織り成す
連続するつながりあった広がり
縦ぎ目をなくし 結合し
一つとなるのを

詩が読む人の心と反響し合って多様なメッセージを生み出すように、「島／宇宙」のドローイングもそれを見る人の位置と角度によって、多様な立体的イメージを作り出します。そのようにして見てください。

建物面積の拡大で、閲覧方法や設備の改善も進みました。蔵書の約半数、25万冊を開架にすることができましたし、4階には情報処理関係の設備が整備されます。利用者端末用パソコンが百数十台設置されるほか、情報処理のための演習室や個室も用意されました。図書館はようやく総合的な情報の収集・製作・発信拠点に生まれ変わろうとしているのです。サービスの改善も進みます。キャンパスカードによる図書館の利用。自動貸出返却装置の設置。開館時間の延長も検討中です。利用者のニーズに合わせた資料の整備とオンライン文献目録（OPAC）の充実にも鋭意取り組んでいく予定です。

新しい図書館で皆さんが思いきり精神を解放し、新しい可能性に挑戦してくれることを期待しています。

(*) 昆虫のタマオシコガネ。古代エジプトでは創造と復活のシンボルとして神聖視された。作者によれば、その意匠（スカラベの石）は、永遠の旅路へ向けてミイラを準備するさいに、石棺のくぼみの中央に置かれたという。

東外大ニュース No. 105

—移転特集号—



CONTENTS

府中移転に際して1~3

「府中新キャンパスを祝して」
学長 中嶋 嶺雄
 「伸びやかな図書館で精神の解放を」
附属図書館長 池端 雪浦
 「移転担当10余年、紆余曲折の人生を感じる」
本学将来計画検討委員会移転問題小委員会委員長
 田島 信元

西ヶ原の思い出4~7

「広い！西ヶ原」
名誉教授（本学前学長） 原 卓也
 「西ヶ原での18年」
総合文化講座教授 沓掛 良彦
 「西ヶ原賛歌、古いアルバムからの回想」
英語科昭和34年卒 松本 惣蔵
 「你好！熊猫」
博士前期課程アジア第一専攻2年 陶 冶

研究室・ゼミ紹介8~10

英語音声学・音韻論ゼミ
指導教官：言語・情報講座助教授 斎藤 弘子
 南・西アジア課程ウルドゥー語専攻3年 草野 由紀
 欧米第一課程英語専攻3年 林 響子

哲学・思想文化論ゼミ
欧米第一課程ドイツ語専攻4年 板橋 祐己
指導教官：総合文化講座 助教授 岩崎 稔

東南アジア考古学ゼミ
大学院地域文化研究科博士前期課程
 大学院生および学部生有志
指導教官：地域・国際講座 助教授 小川 英文

課外活動ニュース11~13

第87回学内競漕大会を終えて
端艇部主務
 南・西アジア課程ヒンディー語専攻3年 松井 佳菜

ぜひ外大観戦を！！
体育団体協議会議長
 欧米第一課程英語専攻1年 林 秀俊

第78回外語祭について
第78回外語祭実行委員会委員長
 東南アジア課程ビルマ語専攻3年 瀬尾ちづる

保健管理センター14

新キャンパスの保健管理センターは
 アメニティを重視したヒーリング空間です
保健管理センター所長 井上 哲文

「介護等体験」について15~16

○「介護等体験」について
 ○介護等体験事前指導 車椅子操作講習会
 ☆☆講習会に参加して☆☆
 欧米第一課程 英語専攻 3年 浅野 悠子
 欧米第一課程 ドイツ語専攻 3年 石垣 宏樹
 東アジア課程 中国語専攻 3年 中村あゆ子
 東南アジア課程 インドネシア語専攻 1年 伊吉 美紀

留学生課より17

○外国人留学生のためのチューター募集
 ○「東京外国語大学留学生支援の会」
 学生ボランティア募集中！
 ○大学間交流協定の締結について

学生課18~20

学生課よりお知らせ
 【1】課外活動施設の使用
 【2】府中キャンパスでの注意事項

就職情報21

平成12年度後期
 就職関連ガイダンススケジュール(概要)

東京外国語大学創立百周年記念募金につ いて22

府中キャンパス周辺MAP23

「投稿規定」
 「あとがき」

<表紙の写真>府中キャンパス研究講義棟
 <裏表紙の写真>西ヶ原キャンパス航空写真